



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

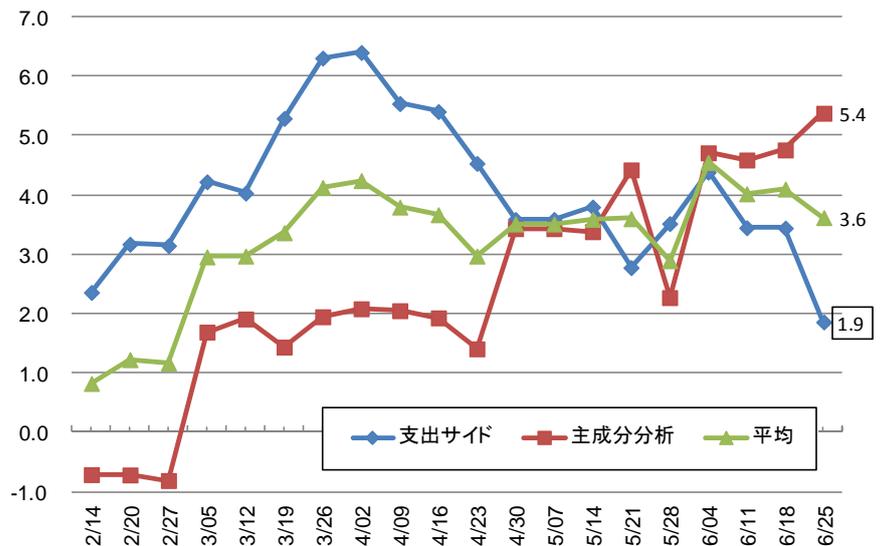
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年6月25日)

ポイント

- ▶先週は、5月の貿易統計、4月の毎月勤労統計(確報値)、建設総合統計、全産業活動指数を更新した。
- ▶4月の供給指数を需要項目別にみると、個人消費指数は3ヵ月ぶりの前月比プラス、民間企業設備指数は2ヵ月ぶりのプラスである。4月の民間需要は好調といえよう。
- ▶公共工事のスタートはよくない。4月は前月比-13.0%減少し、2ヵ月連続のマイナス。実績は1-3月期平均比-17.7%低い水準である。
- ▶5月の貿易収支(季節調整値)は15ヵ月連続の赤字となり、赤字幅は前月比+28.4%と2ヵ月ぶりに拡大した。4-5月期の貿易赤字(四半期ベース)は前期比+19.9%高い水準。4-6月期の純輸出にとって、厳しい状況である。
- ▶日本経済は公共投資と純輸出から成長のモメンタムを失っている。今週のCQMは、4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率+1.9%と予測。先週の予測から大幅下方修正。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q2 (%、前期比年率換算)



<公共投資と純輸出から成長のモメンタムを失う：4-6月期実質GDP成長率予測2%を切る>

先週(6/18-6/22)は、5月の貿易統計、4月の毎月勤労統計調査(確報値)、建設総合統計、全産業活動指数を更新した。これらのデータは、民間企業設備、公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測値に影響を及ぼす。

4月の(全産業)供給指数を需要項目別にみると、個人消費指数は前月比+1.6%と3ヵ月ぶりのプラス、民間企業設備指数は同+6.6%大幅に上昇し2ヵ月ぶりのプラスである。4月の民間需要は好調といえよう。

一方、4-6月期の公共工事はよくないスタートとなっている。4月の公共工事は前年比+6.5%増加し3ヵ月連続のプラスだが、前年の水準が低いため要注意。季節調整値は前月比-13.0%減少し、2ヵ月連続のマイナス。4月の実績は1-3月期平均比-17.7%低い水準である。このため4-6月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から下方修正された。

5月の貿易収支(季節調整済値)は15ヵ月連続の赤字となり、赤字幅は前月比+28.4%と2ヵ月ぶりに拡大した。4-5月期の貿易赤字(四半期ベース)は前期比+19.9%高い水準である。4-6月期の純輸出にとって、厳しい状況である。

貿易収支を地域別にみれば、対米貿易黒字は4ヵ月連続の前年比プラスと好調。一方、対アジア貿易黒字は15ヵ月連続で減少した。また対EU貿易収支はEU経済の低迷を反映して統計比較可能な1979年以来初めての貿易赤字に転落した。4-6月期の実質純輸出の予測値は先週から下方修正された。

今週(6/25)のCQM(支出サイド)は、内需は引き続き拡大するが、純輸出は縮小するため実質GDP成長率を前期比年率+1.9%と予測する。先週の予測(+3.4%)から大幅下方修正された。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550